

## ノーサイン野球はアクティブラーニングの完成形か

松本 行央

**要旨：**本稿は、「ノーサイン野球」がアクティブラーニングの完成形であることを明らかにするため、2018年の常葉大菊川高校の試合を実践例として取り上げていく。その実践例は、ノーサイン野球がどのように「主体的に考える力」を駆使し、「対話的で深い学び」を実現することができるのかを、同年の地方大会と甲子園大会の試合の中から、ノーサイン野球が顕著にみられる13例のプレーを切り取り、1つずつスコアブックを付け加えながら、実況解説する。また近年、少年野球から大学野球において、ノーサイン野球を行うチームが増加しているが、ごく少数である理由として「ノーサイン野球」というスタイルが十分に確立されていないからということが挙げられる。本稿は、ノーサイン野球の方法が十分に確立され、課外活動を通じた教育法の一つとして有効であることを論証する。

**キーワード：**ノーサイン野球、主体的に考える力、対話的で深い学び、  
成果と育成の二律背反、野球選手の完成形

### 1. はじめに

近年、常葉大学附属菊川高等学校（以下、常葉大菊川）をはじめ、様々な野球チームにおいて新たなスタイルが見出されつつある。

それが「ノーサイン野球」である。ノーサイン野球は、従来の指導者からの指示（サイン）に従い、選手が戦術を行うプレーではなく、監督の指示（サイン）なしに、能動的に作戦を選手間で練り上げ実行する野球のことであり、主に攻撃回に行われるものである。本稿では、指導者の指示を待たず、選手が主体的かつ能動的に考え行動する野球と定義する。このノーサイン野球の体系が現在の「主体的・対話的で深い学び」の一視点である「アクティブラーニング（以下、AL）」の完成形ではないかと考える。

文部科学省は、2012年の中央教育審議会において「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」とALの重要性を示している<sup>1</sup>。このことから、ALは当初大学教育の在り方を示す1つの考え方であったが、この考え方が高等学校・中学校・小学校にまで下ってきている。したがって、「主

---

<sup>1</sup> 文部科学省（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」p.9；  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf)（2023-01-29 閲覧，以下同じ）

体的に考える力を育成する」ことは、大学教育だけではなく、小学校から大学まで一貫して行われるべき課題となっている。そこで着目したのが野球界で注目されているノーサイン野球である。この「ノーサイン野球」は、常葉大菊川をはじめ、少年野球から数段レベルの高い大学野球でもチーム戦術として取り入れられ、結果を残しており、特に常葉大菊川が甲子園ベスト 16 入りし、かつ第 73 回福井国民体育大会の出場を果たしたことは、ノーサイン野球が全国レベルで通用するほどに選手を育成できているという証明になるであろう。本稿では、この「ノーサイン野球」という野球スタイルから、選手の資質・能力を育成する為の AL の理想的な姿を見出していく。

## 2. 練習におけるノーサイン野球

常葉大菊川は、試合だけではなく、練習でもノーサイン野球に取り組んでいる。それがたった 2 時間の「全体練習」とその後の「自由時間」である。普段の全体練習では、アップ、キャッチボール、内野ノック、外野ノック、1 か所ゲーム式バッティング、フリーバッティングの順に行い、基本選手同士の気付きや教え合いの「対話」で互いに意識の共有や個々の技術の研鑽に励んでいる。また、自由時間では選手一人ひとりが与えられた時間を自身で上手く使い、自らの資質・能力を磨くことに充てられるほか、学校の宿題や試験勉強、休養にも充てられるなど、かなり自由な時間を過ごしている。佐伯夕利子 2021 は、「教え込むと脳が休止する」といい、それについて「教え込まれた時点から、『自分で考える』という脳の働きがすでに休止してしまっている」と述べている (pp.97-99)。このことから、自由時間は、練習方法に縛られず、選手各々が「自由にやりたいことをやりたい方法でできる」という、子ども・生徒が主体的かつ一番「アクティブ」になることができる活動といえる。それだけではなく、選手が望めば、監督・部長・副部長のみならず、大学野球や社会人野球を経験している OB からも指導してもらえるという、資質・能力を伸ばせる活動環境がデザインされているのである。この全体練習と自由時間が、文科省の示す「アクティブラーニングの視点からの不断の授業改善」にあたる。

私は、この全体練習と自由時間が常葉大菊川の「ノーサイン野球」を育て、その基盤を作り、チームの信条である「フルスイング」もこのような自由からくる積極性から形づくられていったのであると考える。

## 3. 「ノーサイン野球」実践例：実況解説

第 3 章では、実戦における「ノーサイン野球」の応用について話を展開していく。

そもそも実戦というのは、他校との練習試合や公式戦に当たり、自チームとは違う、見方・考え方や価値観等の様々な野球観を持った他チームとの試合は、自チームや選手各々が持つ良さや課題を再確認できる大きな機会である。「ノーサイン野球」の問題点としてまず、学校で行う授業内の試験（テスト）とは違い、相手の調子や自チームの調子、天候、グラウンドの状態等によって、今まで得てきた知識・技能を發揮できるかどうか左右されてしまうところがある。しかし、この点において、常葉大菊川では、「前の塁を狙ったアウトは OK」としていることや（堀之内ら 2018）、ノーサイン野球での失敗に対して「実際に自分で考えて行動を起こさないといけないため、ミスをしてもそれが大きな経験となり、次の成功のための糧になるから。」という選手らの意見から、今まで得てきた

知能・技能を発揮できたかどうかとは関係なく、主体的に考える力を育成することが出来るのである。

しかし、甲子園常連校の大阪桐蔭高校西谷監督は、「練習の中で『チームを強化する時期』と『個性を育む時期』に分けている」と述べており、同監督を取材した氏原英明2021は、「トーナメントで勝つことばかりにチーム方針が偏ると、選手の個性が開花しない可能性がある。選手として、将来的に目指すべきプレイヤー像と、目先の勝利を掴むためのスキルは二律背反する。」と述べている。

ところが、「勝利を掴むためのスキル」をもたない選手というのは、野球という「勝ち」「負け」があるスポーツにおいて、無意味な存在であるから、ここにいる「二律背反」は本来成立しない。「ノーサイン野球」を行っている常葉大菊川では、そもそも「チームを強化する時期」と「個性を育む時期」に分けて行う必要もない。なぜならば、勝つためにどうすればよいのかを主体的に考える選手を育成する「ノーサイン野球」が、「将来的に目指すべきプレイヤー像」と「勝利を掴むためのスキル」を一挙両得できる野球スタイルであり、言わば完成された野球選手の育成を目指すからである。

では、そのような野球選手を育成することができる「ノーサイン野球」の試合で、選手たちがどのように見て、考えてきたのかを実際の試合を参考に、いくつかのプレーを抜き出して、説明を加えながら確かめていこう。

#### 常葉大菊川 選手・指導者一覧（2018年）

監督	高橋 利和
部長	黒澤 学
副部長	石岡 諒哉
副部長	鍵山 博一

背番号	名前	位置	学年	出身	投/打
1	漢人 友也	投手	3	中学軟式	右/左
2	根来 龍真	捕手	3	浜松シニア	右/左
3	鈴木 琳央	内野手	3	掛川シニア	右/右
4	東 虎之介	内野手	3	浜松南シニア	右/左
5	海瀬 隼兵	内野手	3	小笠浜岡シニア	右/左
6	奈良間 大己	内野手	3	小笠浜岡シニア	右/右
7	神谷 亮良	外野手	3	岡崎葵ボーイズ	右/左
8	榛村 大吾	外野手	3	中学軟式	左/左
9	柳沼 一葉	外野手	2	中学軟式	左/左
10	伊藤 勝仁	投・外	2	浜松南シニア	右/右
11	松本 幸	投手	3	中学軟式	右/右
12	大杉 怜央	捕手	3	中学軟式	右/右
13	田原 綾将	内野手	3	寝屋川ボーイズ	右/右
14	宮崎 泰地	内野手	3	中学軟式	右/左
15	小倉 啓人	内・外	3	中学軟式	右/右
16	竹内 智哉	内野手	3	中学軟式	右/右
17	衣笠 仁	外野手	3	大阪箕面ボーイズ	右/右
18	岡田 竜汰	外野手	3	浜松南シニア	右/右

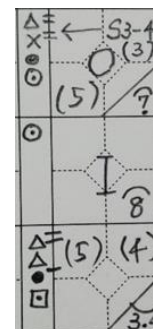
今回取り扱う試合一覧

対戦日時・(地方大会)	対戦校	結果
2018.07.21【3回戦】	静岡県立清水西高等学校	7-0 (7回コールド)
2018.07.22【4回戦】	静岡県立袋井高等学校	16-2 (5回コールド)
2018.07.24【準々決勝】	静岡県立静岡商業高等学校	11-0
2018.07.27【決勝】	静岡県立島田商業高等学校	6-5 (サヨナラ)
対戦日時・(甲子園大会)	対戦校	結果
2018.08.07【1回戦】	七尾学園 益田東高等学校	8-7

地方大会 第3回戦 (常葉大菊川ー清水西)

(1) スコア 1-0、三回表ノーアウトランナー1 塁、ランナー神谷が、大きくリードをとったからか、何度も牽制されるもカウント 0-1 変化球を投げるタイミングで盗塁を決める。打者奈良間も積極的に振りにいったことで、捕手に焦りが生じ、握り替えをミスして送球できずに終わる。この積極的な走塁が常葉大菊川の基本の「ノーサイン野球」の形である。

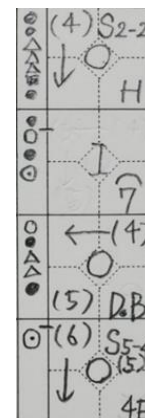
(2) 2-0, 三回表 1 アウトランナー一塁、カウント 1-2 で一塁ランナー奈良間が盗塁を図ると同時に、バッター鈴木が浅めのライト前ヒットを打ち、ヒットエンドランが成功する。その間に一塁ランナー奈良間がそのまま二塁を回って三塁に進み、投手が一番嫌がる一・三塁となる。(1) と同じようにランナーを進め、相手のミスや焦りを誘い、チャンスの数を増やす。これにより、常葉大菊川の信条である「フルスイング」が可能となるのである。



(3) 7-0、六回表 1 アウトランナー一・二塁、バッター東が初球サード方向への絶妙なセフティバントを成功させ、一・二塁のランナーを進塁させるとともに、自らセーフになり、ランナー満塁となる。レフト前ヒットでランナー一・二塁の形を作った直後のプレーということもあり、強振の警戒をしていたため、すぐさま打球を処理することが出来なかった。完全に裏を突いた戦略である。もし、サインが出ているところを見られていたら、バッテリーやサードはバントの警戒をしていただろう。

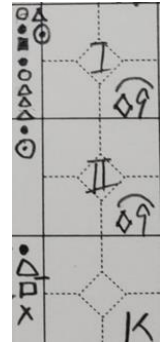
地方大会 第4回戦 (常葉大菊川ー袋井)

(4) 0-0、初回ノーアウトランナー一塁、カウント 1-0 で一塁ランナー奈良間が盗塁しづらい左ピッチャーに対して、ギャンブルスタートを決め、盗塁を成功させる。そもそも、投手の癖やサインの出し方など相手チームの情報がほぼゼロという中で盗塁をしてくるチームは、あまりないだろう。この試合が始まって、牽制 1 回あったのみで盗塁を決めることができたのは、ノーサイン野球で選手の考え方に縛りが無い環境であったからである。



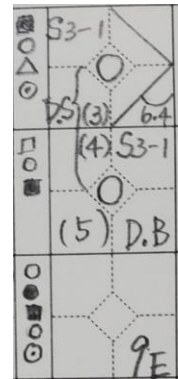
ノーサイン野球はアクティブラーニングの完成形か

(5) 1-0、同じく初回 1 アウトランナー・三塁（守備はセカンドゲッツー想定）、カウント 1-2 で一塁ランナー根来が盗塁を図ったことによって、サードゴロが二塁でのゲッツーを阻止、一塁のホースアウトのみとなり、三塁ランナー神谷がその間にホームインする。三塁ランナーは打球を見て、「ゴロゴロ」の形をとり、一塁ランナーだけのヒットエンドランという形は、どの高校野球チームを探してもサインプレーではほぼ行われまいであろう形のプレーである。これも「ノーサイン野球」ならではのプレーである。

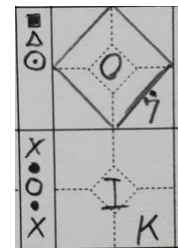


(6) 3-0、同じく初回 2 アウトランナー一塁、バッター衣笠が左中間のタイムリーヒットを放つ。この際、ヒットエンドランが成功しており、カウント 1-2 からの一塁ランナー榛村の早めのスタートがなければ、楽々とホームインすることはできなかつたであろう。一塁ランナーの榛村は、はじめからリードを小さくし、ほぼ棒立ちしており、盗塁をする気配は出していなかったため、投手は盗塁をしてくることはないだろうと判断し、単調なリズムで投球してしまっていたところを、好スタートすることができた。

(7) 5-0、二回表ノーアウトランナー・二塁、カウント 0-0 で二塁ランナー奈良間と一塁ランナー東のダブルスチールを決める。普通の考え方として、二塁ランナーは三塁へ盗塁するタイミングを計るだけでよいが、一塁ランナーは二塁ランナーの動きをみながらプレーする必要があるため、盗塁やヒットエンドラン等を行う際は、ベンチから両ランナーが次に何をするとする共通のプレーのサインをだす。しかし、このプレーではサインなしに両ランナーが盗塁を決めるためにほぼ同時にスタートを切っている。難度が高い今プレーを公式戦で行って悠々と成功している時点で、選手同士のプレーに対する意識の共有が出来ていることがわかる。

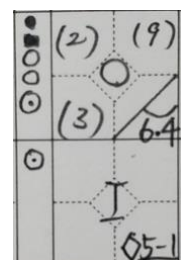


(8) 10-0、五回表ノーアウトランナーなし、バッター神谷が初球をサード方向へのセフティバントを決めようとするが空振りで失敗。神谷の前のバッター柳沼が左中間に強烈な本塁打を放つことにより、相手守備の意識が打って飛んでくる打球への処理に大きく偏ってしまっているところを、セフティバントで隙を狙う。バントは空振りになり、失敗に終わったが、このような積極性はサイン野球ではないからこそその良さでもある。



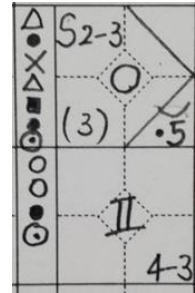
地方大会 準々決勝（常葉大菊川ー静岡商業）

(9) 1-0、二回裏ノーアウトランナー一塁、バッター神谷がバントを決め、一塁ランナーを進塁させる。この場面で、ただの送りバントではなく、バッターランナーが一塁へヘッドスライディングでセーフになろうとしているところから、セフティバントを決めようとしていることがわかる。2アウトのホースプレーでない限り、一塁の場面で送りバントよりも失敗の確率が低いセフティバントのサインを出す指導者は、トップの高校野球レ



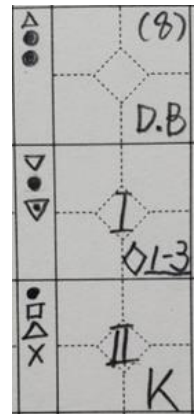
ベルでもなかなかいかないであろう。

(10) 9-0, 五回裏 1 アウトランナー二塁、カウント 0-2 二塁ランナー奈良間が盗塁を成功させる。この場面では、投手の癖を十分に見極めて、盗塁を行っている。相手投手は、キャッチャーからのサインを見た後、二塁方向を見ながらセットポジションに入り、ホームを見た後また二塁方向を見てから投球するのが癖である。この癖を見抜き盗塁を成功させている。ノーサイン野球である方がこのようにサインが出るまで待つのではなく、常に次の塁を狙うために主体的に考え続けるのである。

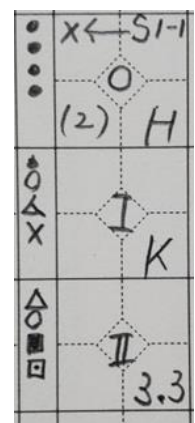


### 地方大会 決勝 (常葉大菊川 - 島田商業)

(11) 1-2, 六回裏ノーアウト一塁、8 番漢人が犠牲バントで一塁ランナー柳沼を二塁へ進塁させ、1 アウト二塁となる。普段は、犠牲バントをしない方針であることから、打ってランナーを進めることが多いが、漢人は自分から選んで犠牲バントを行った。ベンチからはバントをしても良いぞと声掛けはあったが、サインではない。漢人は投手であることから、大事をとることに加えて、ランナーを進めるためにそのプレーを選択した。ここでポイントになるのが、「犠牲バント」という選択肢を自ら選んだという点である。もちろんベンチからバントのサインが出たとしても、この犠牲バントは成功していただろう。しかし、ベンチから出たサインを遂行し、バントを成功させたことよりも、大事な場面で自ら考えて、バントを選んで成功させたことの方が「主体的に考える力」に加えて、「バントをする技術」に対しても自信の付き方が違うだろう。この方が確実に次も自信をもってバントをすることができるのである。

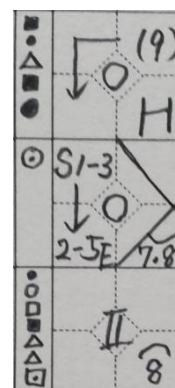


(12) 4-3, 八回裏ノーアウト一塁、一塁ランナー神谷が盗塁を仕掛けた際、初球ストレートワンバウンドのボールをキャッチャーがパスボールし、一塁ランナー神谷がその間に二塁まで到達した。常葉大菊川は 1 点が欲しいため積極的に初球から盗塁を仕掛けたことにより、捕手の焦りを誘い、このような結果をもたらせた。この時のバッターは、この時打率約 8 割 5 分を誇る奈良間大己であったため、ランナーを二塁において 1 ヒット 1 点の場面を作りたいことから、ランナーは盗塁を狙うことになる。この際、もし監督が盗塁のサインを出さずれば、ピッチャーの様子を伺いながら、2 球目以降に出すだろう。しかし、ランナー神谷は奈良間がランナーの動きを気にすることなく打たせたいことから、早めのカウントで盗塁を仕掛けた。結果論といわれればそれまでだが、このような考え方が出来たからこそパスボールで進塁することができ、結果 2 番東の内野ゴロで 1 点を返すことにつながったことは紛れもない事実である。「バッターにランナーを気にせず、早いカウントから打つことに集中してもらおう」ためにと考えて動くような選手が他チームにどれだけいるだろうか。



## 甲子園大会 第1回戦（常葉大菊川－益田東）

(13) 7-7、八回裏 1 アウト二塁、二塁ランナー神谷がバッター奈良間に対しての 3 球目で三塁への盗塁を仕掛け、キャッチャーからの送球をサードが逸らしランナー神谷がホームインする。試合は終盤、同点で迎えたこの場面は、何としても 1 点が欲しいことから、1 ヒット 1 点よりも点を取れる確率を上げるためにランナーを三塁へ進めたい。ここでポイントになるのが盗塁を仕掛けるタイミングである。この緊迫した場面でのプレーは、選手の癖がもろに出やすい。そのため、投手の首の振り方が単調になったことに気付いた二塁ランナー神谷は、バッターが右打ちであることとキャッチャーの変化球のサインが出たことを確認し、ピッチャーが投球動作に入る前からスタートを切った。その結果、キャッチャーの送球ミスとサードの捕球ミスを誘い、ホームインすることが出来た。送球ミスと捕球ミスは結果論だが、そのミスが無くても、バッター奈良間で 1 アウトランナー三塁のタッチアップでも点を取ることができる形を作ることができた。



以上に挙げた 13 個の実践例は、選手一人ひとりが「主体的に考えている」からこそできるプレーである。「ノーサイン野球」という野球スタイルが「サイン野球」よりも常に主体的に考え、チームメイトと戦術をこなすために対話を行っていることがわかる。また、野球の全体的なレベルアップに必要とされているのは、技術ではなく、その技術を身に付けるためにどのようなことをどのような方法で行うかを自分で悩み考え、それを実行できる力であると考え。従来のスタイルである監督のサインで動かす野球では、育成することが出来ない資質・能力を、「ノーサイン野球」は育成していることに加え、勝利を掴むためのスキルをも身に付けることができるのである。つまり、「主体的に考える力」を身に付けることのできる「ノーサイン野球」は、常に「アクティブ・ラーニング」を実践することが出来ているといえるだろう。

なお、全国中継された甲子園の実践例は、一例にとどめたことをお断りしておく。

## 4. おわりに

監督のサインなしで的確に行動し、勝利を掴むことのできる主体が野球選手の完成形であるとすれば、教師の指示なしで的確に学習し、成果のあげることのできる子ども・生徒もまた「主体的・対話的で深い学び」の完成された実践者と言えるだろう。その際、常葉大菊川のノーサイン野球において顕著な特徴は、自らが置かれている状況の認識と判断の的確さにあると考える。教室においても子ども・生徒が一人ひとり自らの置かれている状況を正しく認識し、的確に判断したうえで「主体的・対話的で深い学び」に取り組むならば、それは「アクティブラーニングの完成形」といえるではないか。ノーサイン野球は、子ども・生徒の主体性の確立という AL の突破口を導きだしていると思われる。

本稿の報告が AL に取り組む教育現場に一定の示唆を与えられれば幸いである。

## 参考文献

佐伯夕利子 2021 『教えないスキル ビジヤリアルに学ぶ 7つの人材育成術』小学館新書  
堀之内健史・辻健治 「失敗でもOK、ノーサイン野球 笑顔も刻んだ常葉大菊川」『朝日新聞デジタル』2018-08-17；

<https://www.asahi.com/articles/ASL8K36DVL8KUTIL00M.html>

氏原英明 「大阪桐蔭“まさかのドラフト指名漏れ”余波『育成する時間がなくなった？』西谷監督が記者だけに漏らした“本音”とは《超強豪にいま何が？》」Sports Graphic Number Web. 2022-12-11；<https://number.bunshun.jp/articles/-/855604?page=3>

【付記】本稿で利用した地方大会の実践例（1）～（10）の動画は下記のURLから閲覧可能である：[https://www.youtube.com/channel/UCthyb\\_oSMxFtDGhWBF-EqqA](https://www.youtube.com/channel/UCthyb_oSMxFtDGhWBF-EqqA)

なお、この動画公開に関して、静岡県高等学校野球連盟理事の鍵山博一先生と静岡朝日テレビ広報部のご協力を賜りました。ここに記して深甚の謝意を表します。

また、本研究にご協力いただいた常葉大学附属菊川高等学校硬式野球部34期生と指導者の皆様、そして支えてくださった井上亘先生に心より感謝いたします。